

今回の環境連携交流事業では初めての岩泉への訪問となりましたが、私にとって大きな収穫を得た経験でした。まず、最も大きな収穫はうれいら商店街や安家地区で実際に被災された住民の方々から生の声を聞いたことです。うれいら商店街で出会った小本地区出身の方からは東日本大震災やそれ以前の台風被害、去年の台風10号の被害で4回も家を建て直した方が知り合いにいる事、安家地区で出会った安家川の川沿いにお住まいの方からは川が溢れて水が迫ってきた時の恐怖や避難場所に自動車を停めておいたにも関わらず2台とも流されてしまった出来事などをお聞きすることができました。

次に大きな収穫だと感じた事は、台風10号の生々しい爪跡を見る事ができた事です。災害が起きた当初に比べれば町の機能は回復し、人が生活を営める状態になっていましたが、安家川のほとりには濁流で押し流されてきた土砂が中に堆積したままの空家や、欄干

がぐにやりと曲がった橋、真ん中でへし折られた電柱などがいくつも見られ、昨年の台風被害のすさまじさを改めて感じ取ることができました。地元の方の話の聞いたり被害現場を見るたびにこのような災害が2度と起こってほしくないと思う反面、現在の復興道半ばの状況で昨年度並みの台風が再び来れば、また大きな被害が出てしまうのではないかと不安に感じてしまう部分もありました。岩泉に今後同様の台風が来ても何の被害も出ない状態に戻る事が、復興を成し遂げられた状態であり、それまでは引き続き岩泉に心を寄せ、応援を続けていかなければいけないと感じました。